
光に包まれた君

(杏 ^ 艸 ^)

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

光に包まれた君

【Nコード】

N2993J

【作者名】

(杏^艸^)

【あらすじ】

すくいあげてくれた一人の男の子。

光で顔はみえなかったがまるで天使だ

あたしは中学1年生の桜井杏です
あたしは充実した中学校生活を送っていた。

「おはよ」

なんか皆の視線がいつもと違って怖い。

「杏！あんたまだで言ってるの？」

へ？なんのこと？

「ふざけんよ。私はこのクラスが大嫌いです。みんな死んでしまえ。By桜井杏 ふざけてんのかよ」

は？今さっき来たばっかいしゃのに？

「今さっききたばっかしなのになんでこんなん書けるん？」

「お前いーかげんにしろよ！クラス全員の机の中に『お前のいけな
いところ』とかいう手紙いれてから」

「いつ入れるひまがあんだよ！お前等がふざけんな！」

もう家に帰ろう。

「桜井さん。どうしたの？」

「すみません。もう学校来ませんから」

あたしは町をぶらぶらしていった。

あたしはなんで生きてるの？

なんのために笑ってたの？
なんのために泣いてたの？
なんのために怒ってたの？
なんのために馬鹿やってたの？
なんのために喜んでたの？
なんのために悲しんだの？

つといても町をあるきながらおもっていた。

もう苦しいかも、、、

「ねえきみ。」

呼ばれたから上を見ると

太陽の光であまり顔はみえなかったが、声的に男の子だとわかった

3

「だいじょうぶ？」

「大丈夫。」

男の子の顔は太陽の光で包まれており、天使のようにあたしをすくいあげてくれた。

ありきたりな人

松下俊輝。 同い年

「僕の学校こいよ！」

先生がダルダルなトシの学校はみんなふれんどりーだった。

やっぱりトシわ天使だ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2993j/>

光に包まれた君

2010年10月15日01時16分発行